

はながさ  
花笠節  
(三下げ)

1. 花笠造はながさついくやい 面うむかう顔かくちよてい

梅んみぬにう匂い ヤレ

里さととわ我が仲なか忍しめばんむんぬん

わ うていち  
我が落お着ちちゆみ ヨイシ ヨイシツ カタミテヨイシ

2. 手紙ていがみぬ来ちやんてい 御状ぐじょうぬ来ちやんてい

わ うていち  
我が落お着ちちゆみ ヤレ

まくらなら い ち  
枕まくら並ならびてい 言いち聞ちかさんむん

わ うていち  
我が落お着ちちゆみ ヨイシ ヨイシツ カタミテヨイシ

3. 深山みやまぬ鶯うぐいす 初春はついはる待まちかに

あさつゆ すい  
朝露あさつゆ 吸すいゆさ ヤレ

う わか ぬはる ん  
老ういん若わかちん 野原ぬはるに出んじとうてい

あし うり  
遊あしぶ嬉うりしゃ ヨイシ ヨイシツ カタミテヨイシ

花笠を造って顔をかくして

梅が匂い立つ中を

忍んで貴方にお会いしなければ

私の心は落ち着きません。

手紙が来ようと便りがあるうと

私の心は落ち着きません。

枕を並べて語り合わなければ

私の心は落ち着きません。

山の奥で鶯が初春を待ちかねて鳴いています

山の木々は朝露を吸って青々としげっています

老いた者も若者もみな野原に出て

楽しむことは本当に嬉しいことです

舞踊「日傘踊り」の一節

四 中 五 工 四 中 工 上 四 五 七

四 中 工 四 中 五 工 四 中 工 七 五 中 五 七 八 四  
 はながみ がみま さぬめ ついくちやんぐ やてい いすい うくは うむじょい うおいは かおぬる かちま くんちち ちよてい てい  
 はてい がみ さぬめ ついくちやんぐ やてい いすい うくは うむじょい うおいは かおぬる かちま くんちち ちよてい てい

八 七 五 中 五 七 五 四 五 中 工 四 中 工 中 上 七  
 んが あみ ぬてい うい にい うちゆ うう うう うう いみさ やや ああ 七れ  
 んが あみ ぬてい うい にい うちゆ うう うう うう いみさ やや ああ 七れ

四 合 老 上 四 五 四 七 四 七 五 中 五 七 八 四  
 さま とう とうら 四あ わが 四な 七か 四 し 七ぬ 五ば 中ん 五む 七ん 八ぬ 四ん  
 さま とう とうら 四あ わが 四な 七か 四 し 七ぬ 五ば 中ん 五む 七ん 八ぬ 四ん

八 七 五 中 五 七 五 四 五 中 工 四 中 工 中 上 七  
 わが ああ うてい いちい ちゆ うう 工み 四中 工中 上い 七し  
 わが ああ うてい いちい ちゆ うう 工み 四中 工中 上い 七し

四 五 四 七 四 七 五 中 五 七 五 四 五 中 工 四 中  
 いよ いし とう かた あみ てい いよ おい 四い 中い 工し 四中  
 いよ いし とう かた あみ てい いよ おい 四い 中い 工し 四中

工 上 四 五 七

1. 花笠造やい 面顔かくちよてい 梅ぬ匂いヤレ 里とつ我が仲忍ばんむんぬん  
我が落着ちゆみ ヨイ ヨイトウ カミテイ
2. 手紙ぬ来んてい 御状ぬ来んてい 我が落着ちゆみヤレ 枕並びてい 言ち聞かさんむん  
我が落着ちゆみ ヨイ ヨイトウ カミテイ
3. 深山ぬ霧 初春待ちかに 朝露 吸ゆさヤレ 老いん若ちん 野原に出じとつてい  
遊ぶ嬉し ヨイ ヨイトウ カミテイ